

2017年6月19日
日興アセットマネジメント株式会社

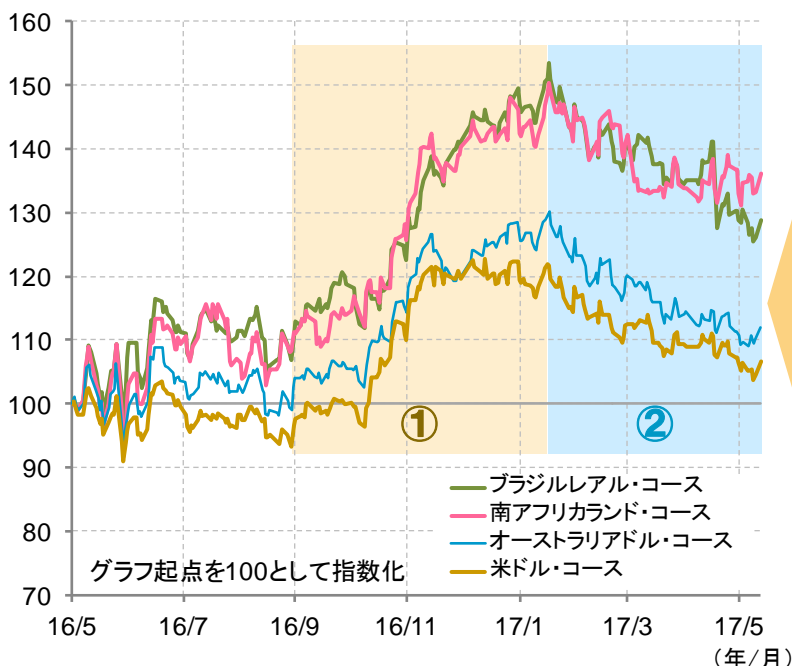
資源株ファンド 通貨選択シリーズ
 <ブラジルリアル・コース> <南アフリカランド・コース> <オーストラリアドル・コース> <米ドル・コース>
 (毎月分配型)

足元の基準価額の状況と今後の市場見通しについて

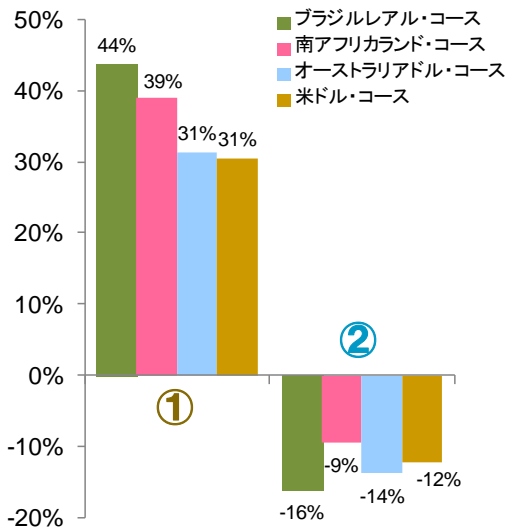
- 資源関連株式(以下、資源株)および資源国通貨は、今年2月半ば以降、昨年秋からの大幅な値上がりを受けた利益確定の動きや、米原油生産の増加に伴う需給悪化懸念が強まったことなどから、調整が続く展開となり、当ファンドの基準価額も変動の大きい展開を余儀なくされました。
- 本レポートでは、当ファンドを取り巻く投資環境ならびに、資源国通貨の中でも下落が目立ったブラジルリアルについて、当ファンドの実質的な運用を担当する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクのファンド・マネージャーによる今後の見通しなどをもとにご紹介いたします。

昨年秋からの大幅な上昇の後、足元で調整が続いた基準価額

<各コースの基準価額(税引前分配金再投資ベース)の推移>
(2016年5月末~2017年6月12日)



<各コースの期間別騰落率>



① 2016年9月28日~2017年2月16日
② 2017年2月16日~2017年6月12日

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したものとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

投資環境
について

原油価格が大きく変動するなか、資源株は比較的底堅く推移

■ 資源株

WTI原油価格は、昨年末にかけて、1バレル＝50米ドル台での推移を続けてきましたが、2017年3月以降、米原油在庫が過去最高水準を繰り返し更新する状況が続き、需給悪化が意識されるなか、足元では45米ドル前後まで下落しました。4月以降は、リビアの油田操業の停止やOPEC(石油輸出国機構)総会で協調減産の延長が決定されるとの期待から、反発する場面もみられましたが、リビアの油田操業の再開や、統計などから米原油生産の増加が示唆されたことなどを背景に、供給増加懸念が強まり、原油価格は変動の大きい展開が続きました。5月下旬には、OPEC総会で協調減産を2018年3月末まで、9ヵ月延長することが決定されたものの、減産幅の拡大や延長期間が長期には至らなかったこと、リビアの増産やナイジェリアの原油輸出の再開などが嫌気され、軟調な推移となりました。

こうしたなか、資源株は年末までの上昇を受けた利益確定の動きもあり、売り圧力が強まりましたが、4月以降は、商品市況が重石となった一方、欧州の政治的な不透明感の後退などを受け、株式市場が総じて堅調に推移したことに支えられ、比較的底堅く推移しました。

■ 資源国通貨

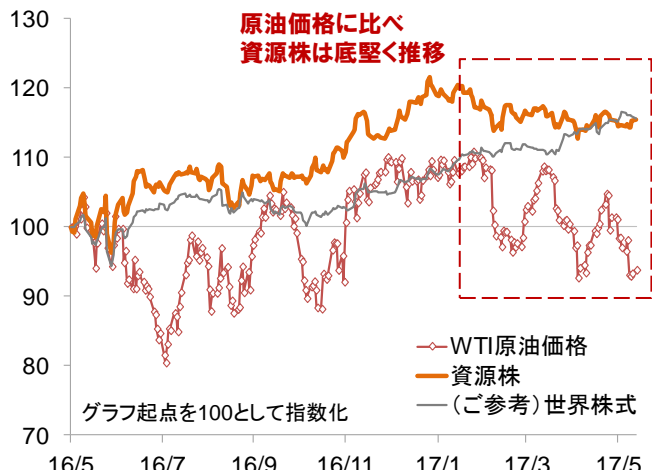
資源国通貨は、昨年末にかけて資源価格とともに大きく上昇していたものの、今年3月以降、資源価格が下落に転じたことに加え、シリアや朝鮮半島などにおける地政学リスクの高まりを背景に、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、総じて軟調な展開となりました。また、南アフリカやブラジルでは、政治情勢の先行き不透明感が強まったことも、通貨が売られる要因となりました。

南アフリカでは、市場の信認が厚かった財務相が3月30日に解任され、拡張的な財政政策に転換するとの見方が強まり、外債建長期債務が投機的格付に格下げになったことなどから、4月半ばにかけて、通貨ランドが大きく下落しました。その後は、金属価格の底堅さなどから、値を徐々に戻しました。

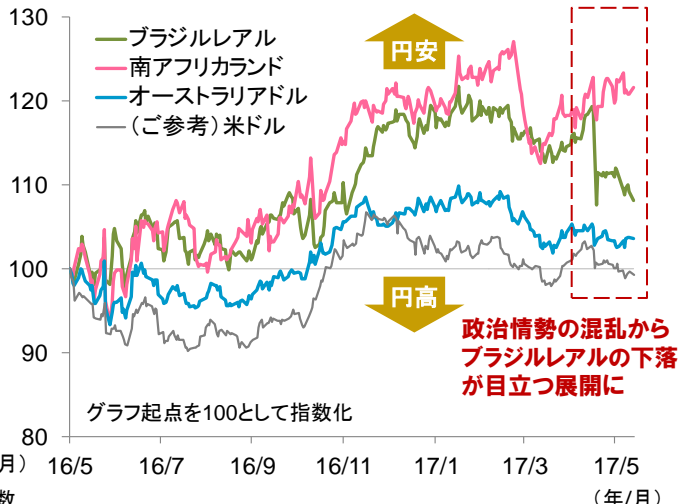
ブラジルでは、テメル大統領が汚職事件の捜査妨害に関わったとの疑いが浮上し、政治リスクへの懸念が再燃したことから、5月半ばに通貨リアルが急落する展開となりました。

直近1年間の主要資産の推移

＜資源株と原油価格の推移(米ドルベース)＞
(2016年5月末～2017年6月12日)



＜為替(対円)の推移＞
(2016年5月末～2017年6月12日)



資源株：S&Pグローバル・ナチュラル・リソースズ指数、世界株式：MSCI AC ワールド指数
※ 上記指数は、市況動向をご紹介するための参考指標であり、当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後の見通し
(原油価格)

需給バランスの均衡とともに、原油価格の安定化が見込まれる

【米シェールオイル生産】 増産懸念は重石ながら、技術革新などには一巡感がみられる

- 足元では、米国のシェールオイルの増産懸念が原油価格の重石となっています。シェールオイルは掘削から生産開始までに掛かる期間が相対的に短く、その時々原油価格の水準によって、生産量が機動的に調整される傾向があります。2016年以降、原油価格が回復基調となるなか、生産コストが低い油田を中心に、掘削リグ稼働数は増加傾向にあります。
- また、技術革新に伴う生産効率の向上やコスト削減の効果などもあり、シェール企業の採算水準が改善したことは、米原油生産を増加させ、原油価格の低下圧力になってきました。
- ただし、シェールオイルの増産をけん引してきた技術革新には一巡の兆しがみられるほか、人手不足を背景に、シェールオイル生産に必要な人件費の上昇が見込まれます。そのため、今後、採算分岐点が上昇する可能性も考えられ、原油価格はシェールオイル増産の影響を受けつつも、安定化に向かうとみられます。

【原油需給】 2018年にかけて均衡、中長期的には一段の改善の可能性も

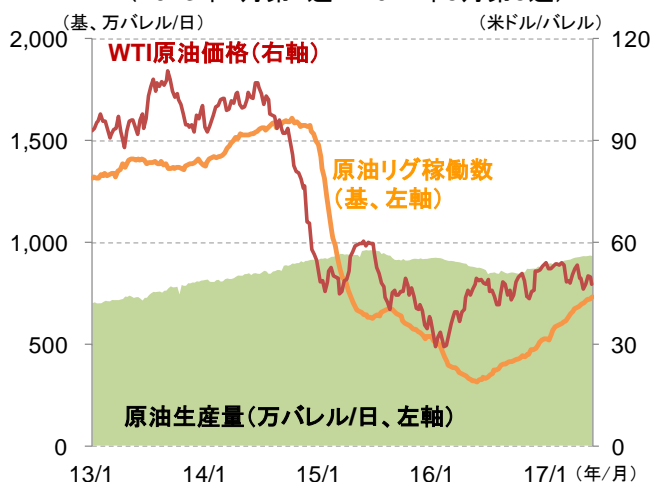
- 供給面では、シェールオイルの増産が重石となる一方、OPEC加盟・非加盟国による協調減産の延長が供給の抑制につながると考えられます。需要面では、米国の夏のドライブシーズンやアジアの冬を控えた暖房用灯油の積み増し需要などが見込まれており、今年後半にかけて需要拡大が期待されます。
- こうしたことから、EIA(米エネルギー情報局)の見通しによると、2018年にかけて需給バランスの均衡と原油価格の安定が予想されています。また、インドや中国などの新興国での需要拡大期待に加え、油田の減耗や供給能力の限界などを背景に、中長期的には、原油価格が一段と上昇する可能性も考えられます。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

増産に転じるも、技術革新には一巡感

＜米国の原油リグ稼働数と原油生産量の推移＞

(2013年1月第1週～2017年5月第5週)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

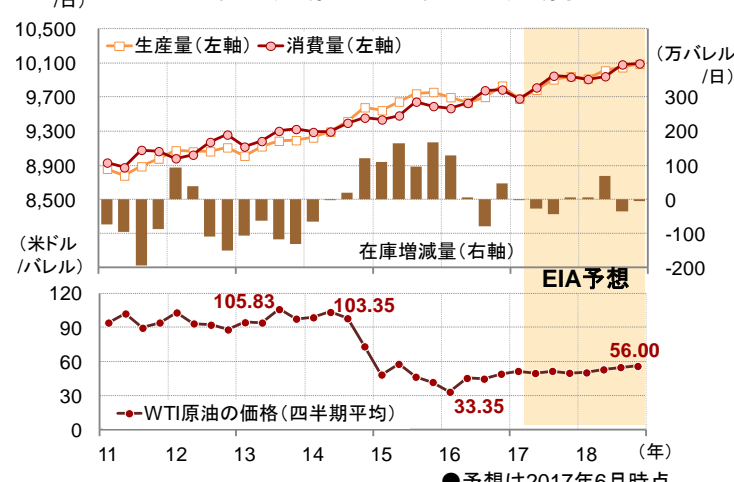
※ 上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

原油の需給バランスは概ね均衡が見込まれる

＜原油の世界需給および価格の推移＞

(2011年1-3月期～2018年10-12月期予想)



● 予想は2017年6月時点

EIAのデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

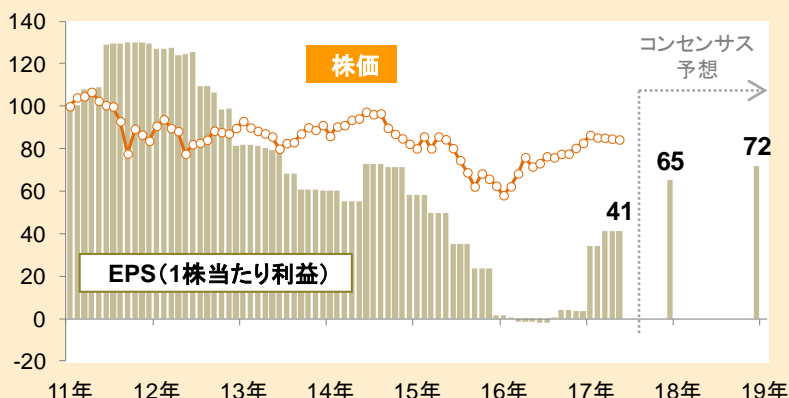
今後の見通し
〈資源株〉

安定的な資源市況が見込まれるなか、効率化により期待される収益改善

- エネルギー株の株価水準には、足元の下落により割安感がみられます。現在の株価は、来年以降に見込まれる企業収益の改善や、原油および天然ガス価格(エネルギー価格)の上昇見通しを十分に反映していないとみられるため、長期投資を行なう投資家にとって、魅力的な投資機会になっていると考えています。
- 多くのエネルギー企業は、コスト削減などの効率化や生産性の改善などにより、**成長ポテンシャルを有しており、エネルギー価格が大きく上昇しなくても、利益を享受できる状況になっているとみられます**。例えば、総合石油企業については、投資・経費の削減などにより、採算性の低い投資プロジェクトの割合が継続的に減少していることに加え、数年前にスタートした長期プロジェクトのコスト負担が減少しており、安定した収益を得られる状況となっています。また、川上分野に属する探査・開発会社においては、新技術による掘削効率の向上などを背景に、生産性を高めており、高い収益成長が期待されます。
- こうしたことから、エネルギー株については、エネルギー価格が一定の水準で安定した推移となれば、収益改善が評価され、株価上昇につながると考えられます。また、一段とエネルギー価格が上昇するようことがあれば、さらなる株価の上昇余地が生まれると期待されます。**当ファンドでは、エネルギー株のなかでも、コスト削減や資産売却、負債の削減などに取り組むことで、収益性の改善が期待される銘柄に注目しています**。
- 素材株については、鉱山企業各社が数年にわたり、設備投資の抑制やバランスシートの健全化などを通じて、収益性の向上に取り組んでおり、足元で設備投資は低水準となる計画が見込まれる一方、キャッシュフローは著しく増加傾向にあり、株価の下支え要因になると期待されます。また、銅価格については、インフラ投資などに伴う高い需要や、鉱石の銅含有量の低下などに伴う供給不足から、今後数年間は需給改善が期待されるため、金属価格の中でも特に強気にみており、当ファンドでは、素材株の中でも、銅の関連銘柄に注目しています。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

〈資源株の株価とEPS(1株当たり利益)の推移〉
(2011年1月末～2017年5月末*)



効率化の進展によって
一段の業績拡大が期待される

株価、EPSともグラフ起点を100として指数化

* EPSは2019年末予想まで
(2017年5月末時点の予想値)

資源株: S&Pグローバル・ナチュラル・リソースズ指数
(米ドルベース)

※ 上記は当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ〈ブラジルリアル・コース〉〈南アフリカランド・コース〉〈オーストラリアドル・コース〉〈米ドル・コース〉(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後の見通し
(通貨)

ブラジルレアルの現状と見通し



政治情勢には引き続き注意を要するものの、経済は改善の兆し

- 同国では、汚職事件の捜査妨害や大手食肉加工会社幹部からの収賄などの容疑で、検察によるテメル大統領の捜査が行なわれており、連立与党内でも同氏に対する批判が高まっています。テメル氏が検察の捜査対象となったことに伴ない、大統領の任期を全うできない可能性が台頭したほか、改革が行き詰まる可能性が高まったことから、通貨レアルが売られるなど、市場に動揺が走りました。
- なお、今後テメル氏に対する容疑が起訴に至る場合でも、大統領が被告として裁判に出廷するには下院の3分の2以上の承認が必要なため、連立与党の現在の勢力状況からは実現の可能性は低いとされています。ただし、容疑が早急に晴れない限り、政権の求心力低下は避けられないとみられ、2018年に選挙が控えていることも考え合わせると、国民に痛みを強いる年金改革法案の成立は難しくなる恐れがあるだけに、捜査の行方が注目されます。
- 政治的な不透明感が強まる一方で、経済には改善の兆しがみられます。ブラジルでは、景気後退が続いていたものの、農業部門の大幅な改善や、資源価格の持ち直しによる鉱業部門の回復などが寄与し、**2017年1-3月期GDPは、前期比1%増と、9四半期ぶりのプラス成長に転じました。**
- また、インフレ率は足元で大きく低下しており、市場では、年末にかけて当局による目標を下回る水準での推移が見込まれています。こうしたことから、**利下げを継続・拡大する余地が生じていると考えられ、緩和的な金融政策が今後も維持されると見込まれる点は、ブラジル経済の追い風になると期待されます。**ただし、5月31日、中央銀行は利下げと同時に発表した声明で、改革の進展を巡る不確実性の高まりを受け、金融緩和ペースを落とす可能性を示唆しており、先行きについては、政治情勢の影響を注視する必要があるとみています。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

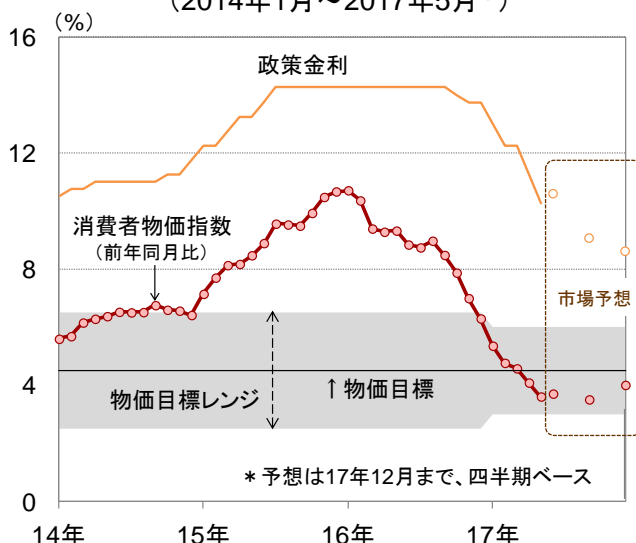
＜ブラジルレアルの推移＞

(2014年1月2日～2017年6月12日)



＜ブラジルの物価および政策金利の推移＞

(2014年1月～2017年5月*)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ＜ブラジルレアル・コース＞＜南アフリカランド・コース＞＜オーストラリアドル・コース＞＜米ドル・コース＞(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

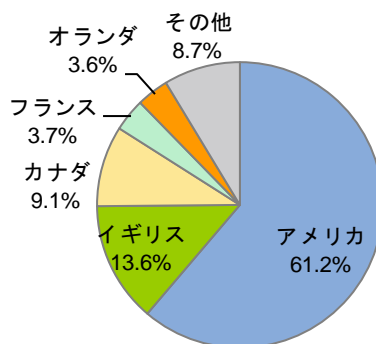
※以下は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」のポートフォリオの内容です。

ポートフォリオ概要 (2017年5月末現在)

業種比率

業種	比率
エネルギー	51.6%
素材	44.5%
不動産	2.3%

国別株式組入比率



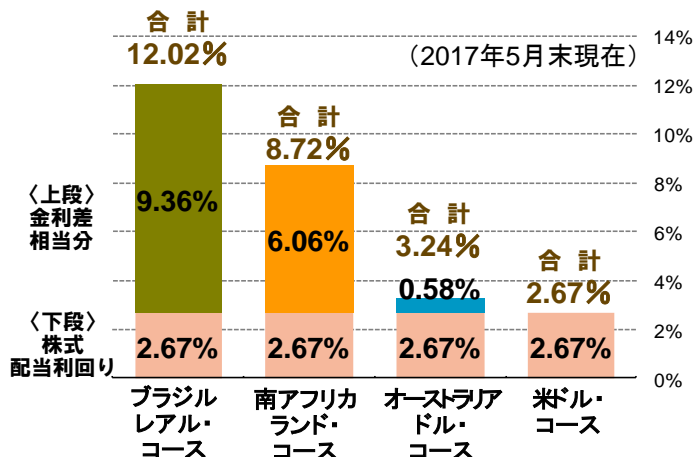
株式組入上位10銘柄

	銘柄名	国名	業種	比率
1	BHPビルトン	イギリス	素材	5.77%
2	モンサント	アメリカ	素材	4.84%
3	リオ・テイント	イギリス	素材	4.26%
4	トタル	フランス	エネルギー	3.70%
5	ロイヤル・ダッチ/シェル	オランダ	エネルギー	3.64%
6	シュルンベルジェ	アメリカ	エネルギー	3.31%
7	ハリバートン	アメリカ	エネルギー	2.96%
8	インターナショナル・ペーパー	アメリカ	素材	2.88%
9	エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	2.74%
10	BP	イギリス	エネルギー	2.71%

【銘柄数:68銘柄】

※上記比率は、「ナチュラル・リソース・ファンド」の組入株式評価総額に対するものです。
※各数値は四捨五入処理をしておりますので、合計が100%にならない場合があります。

【ご参考】株式配当利回りと各通貨の金利差相当分



※金利差相当分: ブラジルリアル短期金利(1ヵ月国債利回り)、南アフリカランド短期金利(ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリド・レート1ヵ月)、オーストラリアドル短期金利(1ヵ月物銀行手形金利)から、それぞれ米ドル金利(1ヵ月LIBOR)を差し引いて算出。
株式配当利回り: 「ナチュラル・リソース・ファンド」の株式配当利回り
※各数値は四捨五入処理をしておりますので、それをを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
※金利差相当分は、各資源国通貨と米ドル間の金利差水準によっては為替取引によるコストとなり、運用成果にマイナスに働くこともあります。
※実際の運用においては、為替取引時の手数料相当額などが金利差相当分に加味されます。

日興アセットマネジメント アメリカズ・インクより提供された情報をもとに
日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

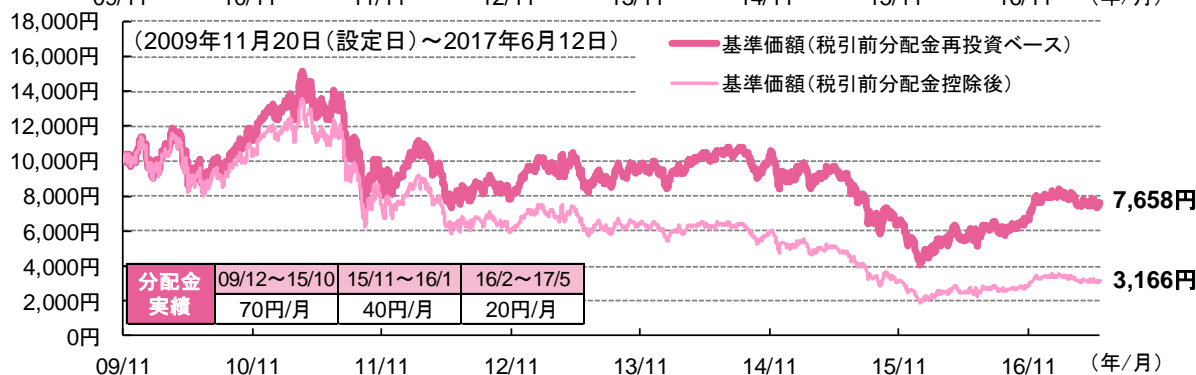
■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額と分配金の推移

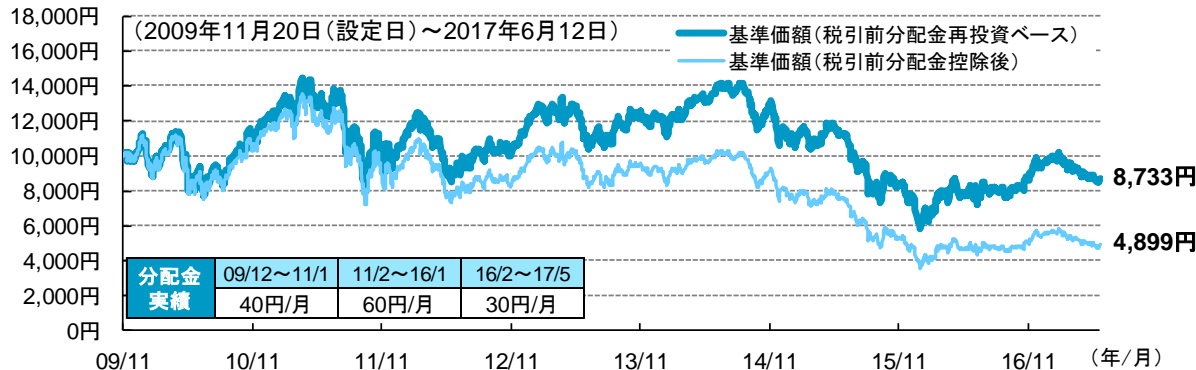
ブラジル
リアル・
コース



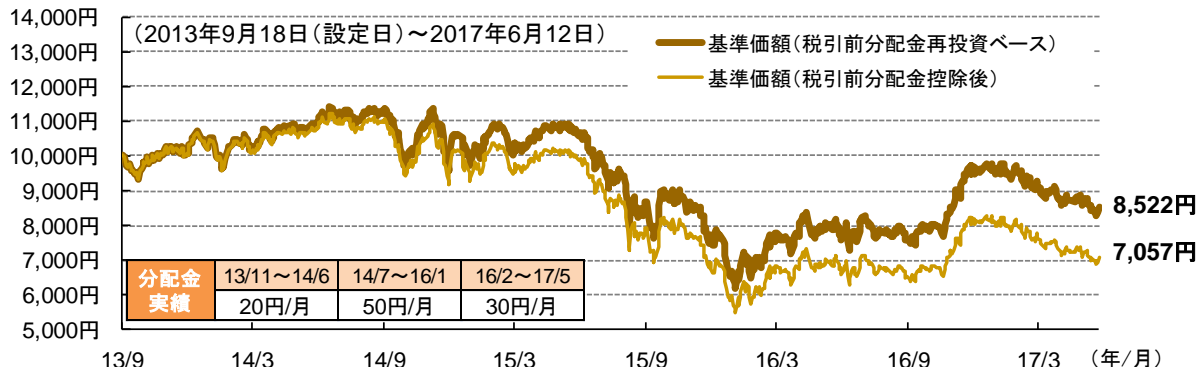
南アフリカ
ランド・
コース



オーストラリア
ドル・
コース



米ドル・
コース



※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。
 ※ 税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものであることにご留意ください。
 ※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

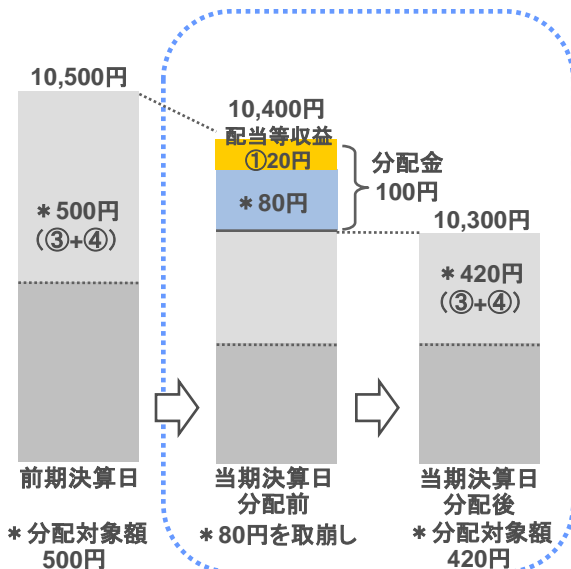
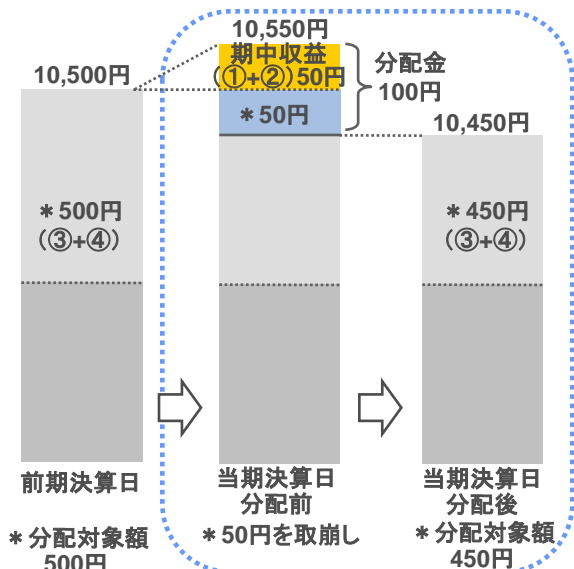


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合

前期決算から基準価額が下落した場合



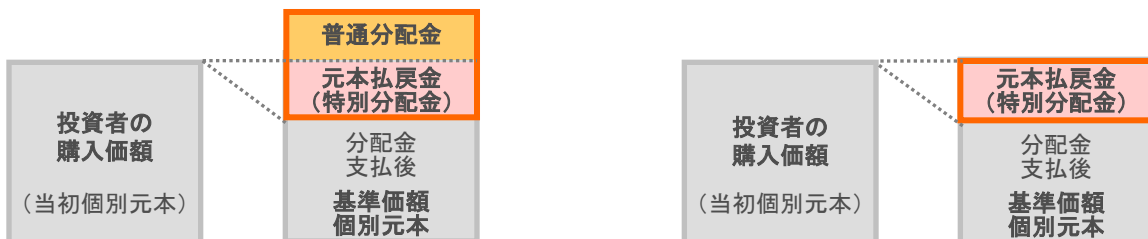
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

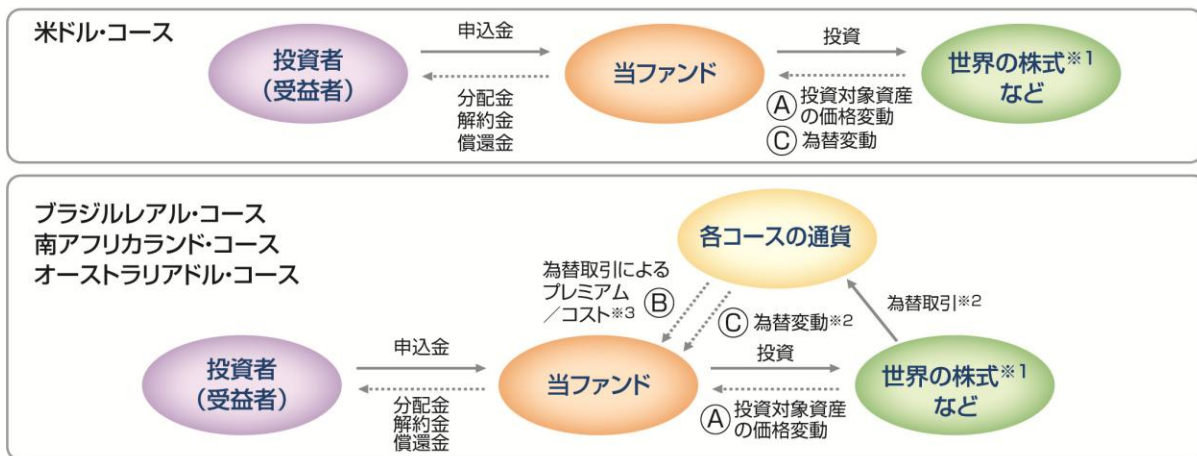
元本払戻金 (特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項

- 通貨選択型の投資信託は、投資対象資産(株式や債券など)の運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行っており、為替取引の対象となる通貨を選択することができます。

通貨選択型の投資信託のイメージ図



※1 当ファンドは、外国投資信託を通じて世界の株式に投資を行いません。

※2 各コースの通貨と円の為替変動リスクがあります。

※3 為替取引によるプレミアム/コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益/費用です。

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。なお、収益源である3つの要素にはリスクが内在しています。詳しくは、「リスク情報」をご覧ください。

収益の源泉		(A) 株価の値上がり/値下がり	(B) 為替ヘッジプレミアム/コスト	(C) 為替差益/差損
米ドルコース	収益を得られるケース	株価の上昇*	為替ヘッジを行なわないのでありません。	為替差益の発生 原資産通貨に対して円安
	損失やコストが発生するケース	株価の下落*		為替差損の発生 原資産通貨に対して円高
収益の源泉		(A) 株価の値上がり/値下がり	(B) 為替取引によるプレミアム/コスト	(C) 為替差益/差損
ブラジルリアルコース 南アフリカランドコース オーストラリアドルコース	収益を得られるケース	株価の上昇*	プレミアム(金利差相当分の収益)の発生 各コースの通貨の金利がプラス	為替差益の発生 各コースの通貨に対して円安
	損失やコストが発生するケース	株価の下落*	コスト(金利差相当分の費用)の発生 各コースの通貨の金利がマイナス	為替差損の発生 各コースの通貨に対して円高

*ADRに投資する場合、ADRの価格には、当該現地株式の通貨に対する米ドルの変動が含まれます。そのため、当該現地株式の通貨に対して米ドル安であれば、株価上昇要因、当該現地株式の通貨に対して米ドル高であれば、株価下落要因となります。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

通貨運用に関する留意事項

- 各通貨の運用に当たっては、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用する場合があります。
- NDF取引とは、投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行なう取引のことを言います。
- NDF取引では、需給や規制などの影響により、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が、短期金利から算出される理論上の水準から乖離する場合があります。そのため、想定している投資成果が得られない可能性があります。
- 為替取引には、為替ヘッジ(原資産通貨を売り、円を買う取引)が含まれています。為替ヘッジの場合、「為替取引によるプレミアム/コスト」を「為替ヘッジプレミアム/コスト」といいます。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアルコース><南アフリカランドコース><オーストラリアドルコース><米ドルコース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1. 主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
 2. 「ブラジルリアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。
 3. 毎月、収益分配を行なうことをめざします。
※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。
- 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式(預託証券を含みます。以下同じ。)を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様は「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様は帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社
- 販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
[ホームページ] <http://www.nikkoam.com/>
[コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
野村證券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関 関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

(50音順、資料作成日現在)

お申込メモ

- 商品分類 追加型投信/内外/株式
- ご購入単位 購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
- ご購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- ご購入不可日 購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、購入のお申込みの受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託期間 【ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース】
2024年6月17日まで(2009年11月20日設定)
【米ドル・コース】
2024年6月17日まで(2013年9月18日設定)
- 決算日 毎月17日(休業日の場合は翌営業日)
- ご換金不可日 換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、換金請求の受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。
詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い 原則として、換金請求受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時に直接ご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、3.78%(税抜3.5%)を上限として販売会社が定める率とします。
※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

※販売会社によっては、スイッチングが行なえない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬 純資産総額に対して年率1.79%(税抜1.71%)程度を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.08%(税抜1%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.71%程度となります。
受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。
詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

その他費用 【ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース】
目論見書などの作成・交付にかかる費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

【米ドル・コース】
目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。